

2027年3月期 第1四半期 決算補足資料

1. 決算概観	P.2
2. 業績のポイント	P.3
3. 業績の状況	P.4
4. 業績と予想	P.5
5. 製品別売上状況	P.6
6. 開発品一覧・その他主要な契約	P.7～9

2026年7月30日
杏林製薬株式会社



■ 将来の見通しに関する注意事項

本資料には、当社グループに関する業績見通しや目標・計画等、将来に関する事項が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点において入手可能な情報や予測に基づく、当社グループの仮定や見通し等の判断によるものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しております。したがって、その後発生した種々の要因により、実際の業績や開発品の進捗・成否、その他の見通し等が記述内容と大きく異なる可能性があります。また医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その記述は宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。

2027年3月期 第1四半期 決算概観



(単位：百万円)	24年3月期 第1四半期	25年3月期 第1四半期	26年3月期 第1四半期	27年3月期 第1四半期	対前年 (%)	27年3月期 第2四半期 (予想)	対前年 (%)	27年3月期 (予想)	対前年 (%)
売上高	27,854	28,419	30,229	29,654	-1.9	57,800	-1.6	121,800	-3.5
営業利益	871	1,150	2,368	964	-59.3	-300	-	2,000	-43.9
経常利益	1,074	1,417	2,624	1,241	-52.7	-100	-	2,300	-42.9
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	787	885	2,100	824	-60.8	0	-100.0	1,500	-56.5

2027年3月期 第1四半期 連結業績（実績）

【売上高】 当社グループ全体の売上高は296億54百万円と前年同期比5億75百万円減となりました。新医薬品等（国内）の売上は、主力製品である「ベオーバ」が伸長したものの、薬価改定の影響等により、前年同期を下回る実績となりました。また新医薬品（海外）の売上は、ガチフロキサシンに関わる収入の反動減等により減少しました。後発医薬品の売上は、オーソライズド・ジェネリック及び2026年度発売の追補収載品の売上寄与等により増加しました。

【利益】 売上高の減少により、売上総利益は前年同期に対して10億83百万円減少しました。また販売費及び一般管理費は、前年同期比3億21百万円増加（うち、研究開発費は3億90百万円増加）しました。その結果、営業利益は9億64百万円と前年同期比14億4百万円減（前年同期比59.3%減）、経常利益は12億41百万円（前年同期比52.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は8億24百万円（前年同期比60.8%減）となりました。

2027年3月期 連結業績（予想）

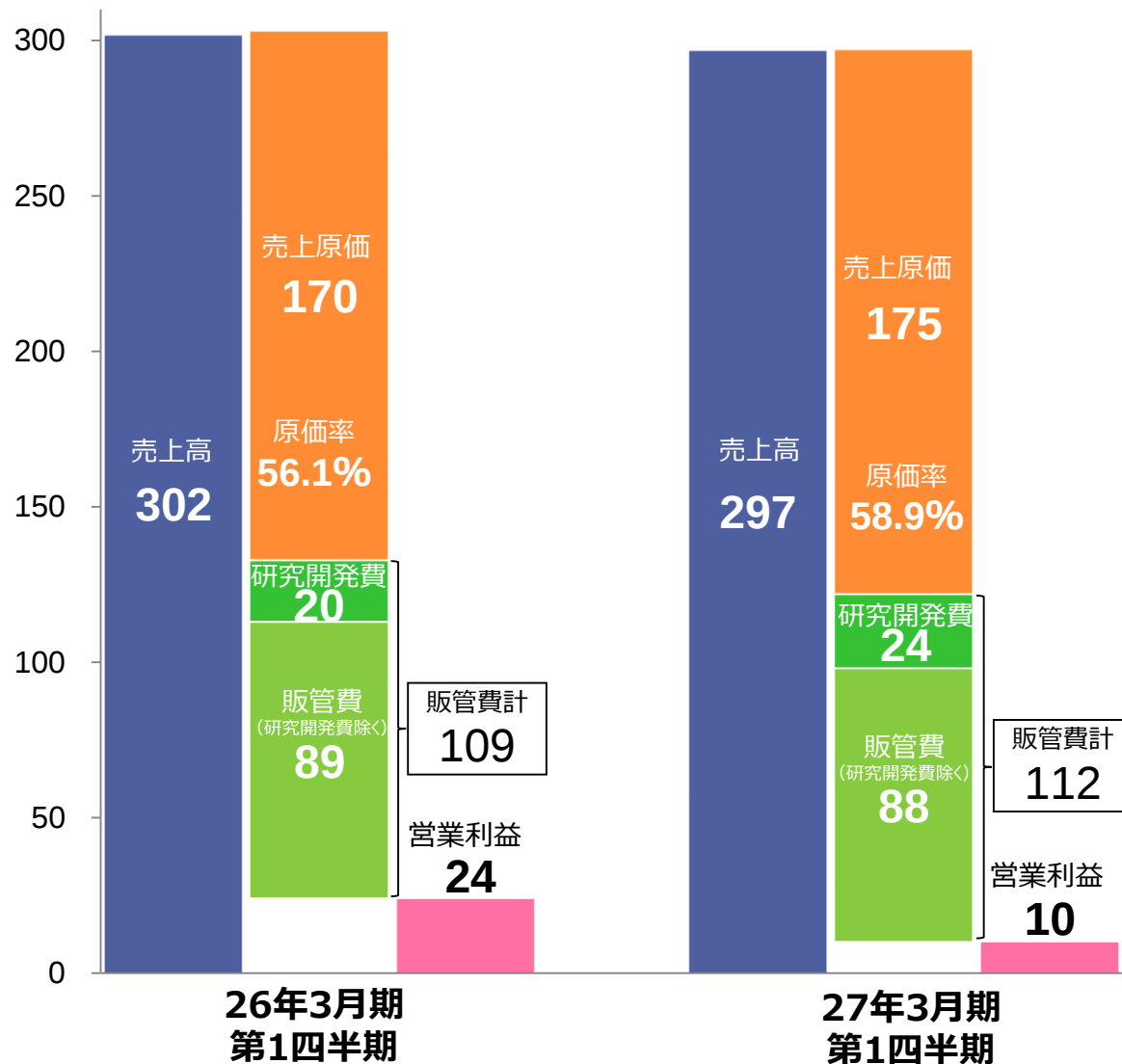
現時点におきまして、2026年5月12日に公表した第2四半期及び通期の業績予想を変更しておりません。

（第2四半期業績予想に対する進捗度 売上高：51.3%、営業利益：- %）

また2026年5月12日に公表した配当予想（年間25円／株）の変更はございません。

2027年3月期 第1四半期 業績のポイント

(単位：億円)



【ポイント】

売上高は減少 (－5億円)

- 新医薬品等（国内）の売上減少
 - ・ベオーバの伸長
 - ・薬価改定の影響（杏林製薬4%台）等
- 新医薬品（海外）の売上減少
- 後発医薬品の売上増加

売上原価率は2.8ポイント上昇

【低下要因】

- ベオーバの売上増加

【上昇要因】

- 薬価改定
- ガチフロキサシンに関わる収入の反動減

売上総利益は減少 (－11億円)

販管費は3億円増加

- 研究開発費は4億円増加
- 販管費（研究開発費除く）は1億円減少
 - ・コスト削減
 - ・特許等使用料は増加

営業利益は減少 (－14億円)

2027年3月期 第1四半期 業績の状況

(対前年)

(単位：億円)	26年3月期 第1四半期	27年3月期 第1四半期	対前年 (額)
売上高	302	297	－5
新医薬品等(国内)	215	211	－4
新医薬品(海外)	4	1	－3
後発医薬品	84	85	＋1

営業利益	24	10	－14
経常利益	26	12	－14
親会社株主に帰属する 四半期純利益	21	8	－13

■ 売上高 297億円 (－5)

● 新医薬品等（国内） 211億円 (－4)

	26.3 (1Q)		27.3 (1Q)	
・ベオーバ	62	⇒	73	(＋11)
・ラスビック	20	⇒	19	(－1)
・フルティフォーム	33	⇒	30	(－3)
・リフヌア	2	⇒	2	(0)
・ムコダイン	10	⇒	9	(－1)
・ペンタサ	32	⇒	27	(－5)
・デザレックス	20	⇒	15	(－5)
・キプレス	5	⇒	3	(－2)

● 新医薬品（海外） 1億円 (－3)

ガチフロキサシンに関わる収入の反動減

● 後発医薬品 85億円 (＋1)

オーソライズド・ジェネリックの伸長、2026年度追補収載品の売上寄与等

■ 営業利益 10億円 (－14)

● 原価率：58.9%（前年同期 56.1%）

【低下要因】ベオーバの売上増加

【上昇要因】薬価改定、ガチフロキサシンに関わる収入の反動減

● 研究開発費：24億円（前年同期 20億円）

● 販管費(研究開発費除く)：88億円（前年同期 89億円）

コスト削減、特許等使用料は増加

■ 親会社株主に帰属する四半期純利益 8億円 (－13)

2027年3月期 第1四半期 業績と予想

(単位：百万円)	第1四半期						第2四半期		通期	
	26年3月期	27年3月期	対前年 (額)	対前年 (%)	第2四半期 進捗率 (%)	通期 進捗率 (%)	26年3月期	27年3月期 (予想)	26年3月期	27年3月期 (予想)
売上高	30,229	29,654	－575	－1.9	51.3	24.3	58,731	57,800	126,257	121,800
新医薬品等（国内）	21,492	21,070	－422	－2.0	51.8	25.2	41,405	40,700	87,113	83,500
新医薬品（海外）	359	131	－227	－63.3	65.9	44.0	504	200	693	300
後発医薬品	8,377	8,452	＋74	＋0.9	50.6	22.3	16,822	16,700	38,451	37,900
営業利益	2,368	964	－1,404	－59.3	－	48.2	1,363	－300	3,567	2,000
経常利益	2,624	1,241	－1,382	－52.7	－	54.0	1,582	－100	4,031	2,300
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	2,100	824	－1,276	－60.8	－	55.0	1,494	0	3,448	1,500

2027年3月期 第1四半期 製品別売上状況

(単位：億円)		第1四半期						第2四半期		通期	
		26年3月期	27年3月期	対前年 (額)	対前年 (%)	第2四半期 進捗率 (%)	通期 進捗率 (%)	26年3月期	27年3月期 (予想)	26年3月期	27年3月期 (予想)
新医薬品等 (国内)	ベオーバ (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	62	73	+11	+17.5	56.8	27.4	123	129	258	267
	ラスビック (ニューキノロン系抗菌剤)	20	19	-1	-3.7	49.9	21.6	35	39	73	90
	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	33	30	-3	-7.9	51.6	24.7	63	59	128	123
	リフヌア (選択的P2X3受容体拮抗薬／咳嗽治療薬)	2	2	0	-9.8	41.9	21.0	5	5	9	10
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	10	9	-1	-6.9	37.4	16.6	20	24	37	54
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	32	27	-5	-14.6	53.2	26.6	63	51	123	102
	デザレックス (アレルギー性疾患治療薬)	20	15	-5	-25.6	91.1	63.4	37	16	102	23
	キプレス (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	5	3	-2	-42.6	76.0	30.4	9	4	22	10
	ミルトン (哺乳びん・乳首消毒剤)	5	4	-1	-15.5	43.0	21.5	9	9	18	18
	ルビスタ (環境除菌・洗浄剤)	2	2	0	-10.2	61.1	26.2	4	3	8	7
後発医薬品 (オーソライズド・ジェネリック)	モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	22	25	+3	+13.2	57.2	24.4	44	43	114	101
	モメタゾン点鼻液「杏林」 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	6	5	-1	-18.0	46.3	11.9	11	10	45	39

開発品一覧①（2026年7月30日現在）

Ph3 ～ 発売

※前回（2026年5月12日）からの更新

開発コード	予定適応症／ 対象疾患	開発段階		起 源	特 徴	備 考
		国内	海外			
KRP-114VP	過活動膀胱	Ph3 (26年5月)	—	メルク社 (アメリカ)	- 選択的β3アドレナリン受容体作動薬 - 膀胱を弛緩させることで蓄尿機能を亢進し、尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁を改善	・ベオーバの小児への適応拡大

※KRP-R120については当社の開発戦略等を総合的に勘案した結果、aTyr社とのライセンス契約を解約することとし、開発品一覧から削除

DTx

開発コード	予定適応症／ 対象疾患	開発段階	契約先	特徴	備考
KRP-DT123	耳鳴	検証的試験（26年5月）	サスメド(株)	・耳鳴治療用アプリ	・耳鼻科領域における治療用アプリの共同研究開発及び販売に関する契約を締結（22年11月）
KRP-DC125	慢性咳嗽	検証的試験（26年6月）※	ハーフ社 (アメリカ)	・慢性咳嗽治療用アプリ	・慢性咳嗽治療用アプリに関する「開発・商業化契約」を締結（24年）

検証的試験：アプリの臨床的意義を確認するための試験

開発品一覧②（2026年7月30日現在）

Ph1 ~ Ph2

開発コード	予定適応症／ 対象疾患	開発段階		起 源	特 徴	備 考
		国内	海外			
KRP-S124	閉塞性睡眠時無呼吸等		Ph1（終了） バイエル社	バイエル社 （ドイツ）	- ADRA2C拮抗作用 - 中枢性に上気道虚脱を軽減。一時的な無呼吸・低呼吸の改善を期待	- 全世界を対象とした独占的製造、開発、販売権に関するライセンス契約を締結（24年12月） 26年度Ph2開始予定
KRP-A225	全身性エリテマトーデス（SLE）等		Ph1 ヒンジバイオ社	ヒンジバイオ社 （アメリカ）	- CD19及びCD20分子を標的とする二重特異性抗体 - B細胞の除去による免疫システムの「リセット」	日本における共同開発及び販売に関するライセンス契約を締結（25年9月）
KRP-126	神経障害性疼痛		Ph1 ビオドール社	ビオドール社 （フランス）	- FLT3ネガティブアロステリックモジュレーター - 慢性疼痛の発症と持続に深く関与するFLT3に抑制的に作用し、効果的な鎮痛作用を期待	- 日本、韓国、台湾における開発・製造・販売に関するライセンス契約を締結（26年3月） 26年度国内Ph1開始予定

導出品

開発コード	予定適応症／ 対象疾患	開発段階	導出先	起 源	特 徴	備 考
KRP-M223	マスト細胞が関与する慢性特発性蕁麻疹等のアレルギー性疾患や炎症性疾患	前臨床	ノバルティス社 （スイス）	自社	MRGPRX2 拮抗薬	- 全世界を対象とした独占的な開発、製造、及び商業化に関するライセンス契約を締結（25年3月） - 日本における商業化及び日本向けの製造に関するオプションを保有

参考：その他主要な契約（2026年7月30日現在）

その他契約

※前回（2026年5月12日）からの更新

製品名	契約先	対象疾患	開発段階	備 考
サチュロ	ヤンセンファーマ(株)	多剤耐性肺結核	発売中	・日本における独占的販売契約締結（26年3月） ・単独プロモーション開始（26年6月～、多剤耐性肺結核） ・肺MAC症の効能又は効果の追加の承認取得後、当社が独占的に販売を行う予定
		治療抵抗性肺MAC症	申請中※ （ヤンセンファーマ(株)）	
※アレジオン眼瞼クリーム	参天製薬(株)	アレルギー性結膜炎	発売中	・日本における共同販売促進契約締結（26年7月） ・眼科領域以外のプロモーション開始予定（26年8月～）

MAC: *Mycobacterium avium* complex

※CYR-064についてはオプション権を行使しないことを決定し、開発品一覧から削除